

会議議事録

委員会	2021年度 学校関係者評価委員会
学校名	東洋きもの専門学校
会議名	令和3年度 第1回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和3年 7月14日(水) 17:30~19:30
場所	東洋きもの専門学校 302・303号室
出席者	<p>◇委員長 ・小寺 克一 (東洋きもの専門学校校長)</p> <p>◇委員 ・大東 正之 (大阪市立鶴見商業高等学校 校長) ・吉村 隆介 (株式会社吉村商店 代表取締役社長) ・藤岡 将 (アトリエシルク千林店 ジェネラルマネージャー) ・近藤 規代 (東洋学園高等専修学校 教頭) ・野崎 智子 (東洋きもの専門学校卒業生 作家&プロデューサー)</p> <p>事務担当 説明者 ・伊藤 (東洋きもの専門学校 副校長)</p> <p>司会 ・中永 (東洋きもの専門学校 教員)</p> <p>書記 ・田中 (東洋きもの専門学校 教員)</p> <p>記録 ・林 (東洋きもの専門学校 教員) ・木村 (東洋きもの専門学校 教員)</p> <p style="text-align: right;">合計 11名出席</p>

議案	<p>協議</p> <p>①令和2年度学校評価委員会結果報告 ・アンケート結果について 「現状と今後について」</p> <p>②学校概要について ・今年度の本校の取り組みについて</p> <p>③今後の重点目標について 教育活動・教育成果・学生支援・教育環境 募集活動と受け入れ</p> <p>④意見交換</p>
----	---

内容

・学校長挨拶

協議

①令和2年度学校評価委員会結果報告

◇アンケート結果について

「現状と今後について」…レジュメに沿って伊藤副校長より説明

[基準1・3]について

令和4年度より学則を変更。生徒募集に繋がるよう、学校の特色を生かし専門性を強く生かしたカリキュラム等の改正を行った。

企業とのコラボ授業を行っている吉村商店及び今年度新たに協同組合オリセン(地場産業)当との産学共同事業 においても一歩踏み込んだ内容とし、就職活動にも活かしたい。

[基準4]について

検定においては、本年度はコロナの影響を受けることなく順調に進んでいる。合格率アップにつながるよう計画的に講習会等を行い、指導に努めている。

就職においては、昨年度はコロナの影響もあり卒業後に決まった学生もいたが、本年度はもうすでに内定を受けている学生も数名いる、よりよいサポートが出来るよう支援している。

又、本年度は、企業から本校に出向いて頂き、学生に対し会社説明会を実施していただいた。

[基準5]について

就職支援に関しては、業界についての講習会を実施するとともに、個別面談を行いサポートしている
コロナの影響も受ける中、奨学金を申し出る学生が増えている。奨学金の説明会や臨時支援の説明会を適宜行い、支援策をアドバイスしている。

[基準6]について

昨年度はコロナの影響もあり学外での学びの場が少なくなりましたが、本年度は状況も見つつ各学年に合わせた学びの実施が実施できている。又、高校への着付け講習会も7月と9月に実施予定。6月にはスタイリストとしての撮影実習授業も行うことが出来た。

[基準7]について

前回の課題とされていたSNSの活用については、広報と連携しながら進めていくとともに、コレクションの作品が出来上がるプロセス等もアップしていく予定。又、吉村商店とコラボブランドとして「オモシロキジ」の専用アカウントを作成し、産学協同プロジェクトの活動等も発信していく。

SNSを活用し、きものを多くの方に知っていただく一つの手立てとしたい。

[基準10]について

ボランティア活動の機会は少なくなってきたが、クリーンアップ作戦などは参加している。

地域の活動としては 千林商店街で11月に予定されている「キモノミテ」が開催されれば、参加する予定である。着付けをメインに本校からもきものを貸出し着装、学生の学習成果を出せるイベントにしたい。

②学校概要について

◇今後の取り組みについて

・学外学習の充実を図る 実際に現場を見て、体で感じ学びを深める。

・地場産業との取り組み 吉村商店さん他2社と産学協同プロジェクトを進めている。
学生のデザインが商品化されることにより意欲向上に繋げる・
伝統工芸品と認定された堺の「和晒」「注染」では、経済産業省からの取り組みとしてゆかたと手ぬぐいのデザインをすすめている。海外に向けた事業展開も視野にいれられ、本日は堺から染の講義と体験に来校された。

[司会] 地場産業との取り組みについてご意見いただけますか？

[吉村] 6月には2学年が研修として、丹後へ訪問された。作り手としても学生からはいつも良い刺激を受けている。業界としては厳しい状況ではあるが、技術・知識のある人は人材としては欲しい。職人のような技術職などやりたいことと就職が繋がらないのが現状。専門学校で学びスキルを持った若い人たちが業界のために活躍できるよう、人材育成でも業界と連携して夢の後押しをしなければいけない。SNS等でOGの業界で活躍されている様子や声などをUPしていけば知名度向上につながると思う。このような学びの取り組みをされている学校は貴重な存在。我々の業界としても大切にしたい。

[伊藤] 一部職種についてはきものを学んだ学生たちが自分のやりたいことがあったとしてもなかなかその職種にはつけない。また、金銭的な満足を持続する者もあるが、金銭的な満足より夢の実現のために働き、充実する人も増えている。

[校長] 以前に比べ、きものに興味を持つものが増えてきているように思われるが、懐古主義的な考えが感じられる。現代との融合ということも考えたかどうか？
本校の売りは何か？

[伊藤] きものに関する事をトータルに学べる学校であるので、即戦力として業界にすぐ入っていける。専門学校で、着付けの免許をとれるのも本校の特色である。きものはなくなることはない。コロナ禍であっても成人式には写真撮影をするため振袖レンタル業(振袖コーディネーター)からは求人は従来通りにある。

③今後の重点目標について

- ・検定の合格率UP 専門的な知識の習得を目指す
- ・募集活動 SNS等を有効に活用し、認知度のアップに努める

[大東] 卒業後の出口ということで、就職ということには繋がらないと思うが、、、
商業科を卒業したものは、在学中にとった簿記等の資格で、結婚・出産・子育てが一段落した後もその資格を活かして優位に就職できたということ聞く。将来に役立つ資格が取れるということも打ち出していければ良いのではないかと。検定の豊富さもアピールし募集への説明に役立てるとよいと思う。

[伊藤] 国家検定・着付検定・色彩検定・ネイル検定・技術検定等多様な検定が修得できる。
大学を卒業してから社会人を経験してから、専門の知識を学びたいと入学してくる者もいる。
きものを学ぶ人口が少なくなっている中、人にはできないことが出来るようになる！！⇒自信につながるということも前面に出してアピールしていきたい。

[校長] 地方では和裁の技術が重宝されているのではないかと。
杣の道には、リサイクル着物店ある。

[近藤] 1年生できもの・ファッション・福祉・情報と4つの分野を学び、2年次よりどれかを選択しコース別に学習するというカリキュラムに変更した。きものに興味を持ってくれる学生が多く出てくれると良いと思う。

④意見交換

基準7 学生の募集と受け入れより意見交換・アドバイス

[校長] 最近の高校生できものに興味をもつような生徒はいるのか？ 進学状況などは？

[大東] 家庭科で学ぶ機会があるが、学年によって興味が異なり今年では保育系が多い、興味を示しても、目の前に現物のきものや着る習慣がない。華道部があり興味を見せるがそこまでにとどまる。税理士や会計士・看護師など、資格を持ち長く就職が出来る職種が人気がある。
専門学校へは50名程度、大学・短大は15パーセント進学する。高校へ進学する生徒が減る中私学への補助金など公立校で定員割れをおこすようになっている。
実際学校で行っていることを実績だけを伝えるのではなく、生徒の生き生きとした姿を動画発信する等映像でも伝え、世間にわかるよう露出していければアピールできるのではと考える。
どのように発信するかが、今後の課題である。

[校長] アニメやゲームに興味を持って目指す生徒は多いのか？

[大東] 今の生徒たちは金銭的報酬をうけるより、夢を追って保護者と対立することもある。学校側としては保護者と生徒の両立から納得をしてもらう事が大切である。
現在、求人は福祉関係が多い。就職してから実務経験を積んでいくというパターンが見受けられる。きもの業界にはどのような職種があるのか一般的にはわかりにくいのでしっかりと打ち出すことが大切。

[校長] そのような事柄に関し、卒業生としてはどのように考えているか？

[野崎] デザイン系を目指すならクリエイター。SNSを利用して交流する機会が多い。
インスタグラム等で着姿・作品をアップしている。個人的にオファーがあれば繋がっていく。
コロナ禍もあり、現在フリーランスではなかなか難しいところはある。培った営業力と人脈が必要。

[校長] 現在の活動はどのようにしているのか？

[野崎] 自分でデザインしたものを自分で着付けをし、染色も行っている。
コロナでイベントや講演会等が出来なくなり、活動の範囲が制約されている。

きもの研究科の石田せつ子さんのようにきもの業界で活躍している人を目指すモデリングがあればわかりやすい。

[校長] 最終的にどのような職種につけるかを、分かりやすく表現していくかが今後の課題ですね。

[伊藤] きものといえば、和裁や着付け以外の職種が認識されていない。
職種が他にもあるということを認識するため、コース名も職種をいれたネーミングに変更する予定である。

[校長] 丹後ちりめんについてはどうですか？

[吉村] 丹後ちりめんは300年の歴史がある。染色前の反物を織っている。
最近では洋装にも丹後ちりめんが使用されるようになり、広幅物も織るようになってきた。
丹後ちりめんの定義が少し変わりつつある。

[伊藤] 今回、本校学生と「オモシロキジ」というコラボブランドを立ち上げさせていただく事になり多くの
方々に丹後ちりめんや取り組みを知っていただけるようにしていきたい。

[校長] きもの用のヘアスタイルはどうですか？

[藤岡] 最近は七五三ではたまに日本髪を結う程度である

[伊藤] 就職先のスタジオなどでは七五三の髪などを結うこともあり、新日本髪の結い方など簡単ではあるが授業には入れている。

[伊藤] 知名度UPのためには今後SNSが必須ですが、発信について何かアドバイスいただけますか？

[藤岡] 卒業生の力を借りて広げていかれるのはどうか。知名度のUPにつながると思う。

[伊藤] 今後、卒業生にも力をお借りし、知名度のUPにつなげていきたいと思う。

学校評価結果より 現状と今後について

令和3年7月14日(水)
東洋きもの専門学校

基準項目	現状と今後について
<p>基準1 【教育理念・目的・育成人材像】</p>	<p>社会のニーズに合わせ、知識・技術共に業界で必要とされる人材育成に努めてきた。今後、学校の特色でもある各専攻コースの知識をより深め、一層充実したカリキュラム内容になるよう見直しを行う。 令和4年度より、学則を変更。各職種に必要とされる専門性をより充実したものとするため、専門分野の時数を増やし、業界での即戦力につながるよう技術・知識の向上をめざす。</p>
<p>基準3 【教育活動】</p>	<p>産学協同事業においても例年より一歩踏み込んだ内容とし、学生の意欲向上と自信につなげ、就職活動にも活かせるものとする。</p>
<p>基準4 【教育成果】</p>	<p>昨年はコロナの影響により、春期～夏期にかけての検定が秋期～冬期に変更される。本校イベントと重なる検定もあり、合格率のアップに繋がらない検定もあった。今年度は現在の所、従来どおり実施されているため計画的に講習会を行い、合格率アップにつなげていきたい。 就職に関しては、昨年度末より今年度始めに個別面接を実施。履歴書のアドバイスや確認、並びに訪問面接・オンライン面接など個人個人へのアドバイスを行い、現在活動中である。 ＜6月末現在＞ 卒業予定者 9名 就職希望者 8名 内定 3名 一次面接 2名 二次面接 2名 エントリー中 1名(全て 業界関係)</p>
<p>基準5 【学生支援】</p>	<p>就職支援に関して、1年次より2年次へ専攻コースの選択にむけ、卒業後の進路を見据えた決定が出来るよう業界についての講習を行っている。一昨年度の学生の理解度を反省とし昨年度に改善を行い実施。在校生の評価より、改善の方向である。より良いサポートが行っていきけるよう更に検討を重ね支援をしていきたい。また、卒業学年の就職活動においては企業と密に連絡をとり、個別に企業より来校いただき、仕事内容の説明会を実施するなど、コロナ禍の就職活動をサポートしている。今後においても社会状況を注視し、しっかりと支援を行っていきたい。 コロナ感染症の影響により、奨学金を申し出る学生が増えている。奨学金の説明会や臨時支援の説明会などを行ない、個別面談も併せて実施。家庭環境やアルバイトの状況より、支援策をアドバイスする。今後も厳しい状況が続くと思われる為、個々の状況を確認し、サポートを行っていきたい。</p>
<p>基準6 【教育環境】</p>	<p>昨年度はコロナの影響により学外での学びの場が少なく、実施に至らないものもあった。昨年度の状況を踏まえ、今年度は状況を見つつ、時期の変更などをし、各学年に合わせた学びを実施。 4月：沖縄研修旅行・堺地場産業の工房見学 6月：宝塚芸術鑑賞・美術館見学・丹後研修旅行(2学年) 7月：歌舞伎芸術鑑賞・丹後研修旅行(3学年) 7月、9月には高校へ着付講習会の実施予定 今後も社会状況を注視し、時期、内容の検討を行い、安全な学びを行っていきたい。</p>
<p>基準7 【学生の募集と受け入れ】</p>	<p>コロナ禍の中、SNSにも力を入れ、広報部と連携しながら入学生の増加に繋げていきたい。</p>
<p>基準10 【社会貢献】</p>	<p>ボランティアに関しては、例年参加していた「天の川伝説」(関西・大阪21世紀協会主催)は開催されず。大阪クリーンアップ作戦は毎年参加。無料着付は天神祭りなどの実施がないため、現在は着付講習会の実施のみとなっている。7月・9月実施予定 11月地域イベントが実施であれば、(振袖や花嫁衣裳など無料貸し出しと着装)参加の予定</p>

